



PERSONAL SOUND SPACE

オーディオルーム / プライベートスタジオ / 楽器演奏室

◆ 理想の音空間をご自宅に ◆

住宅におけるオーディオルームやプライベートスタジオ、楽器演奏室では、周囲に気兼ねなく存分に鑑賞や演奏ができるというだけでなく、音響的に心地の良い部屋であることも重要です。そのような音空間を実現するために、建物の構造、部屋の広さや形状、部屋の用途など諸条件に合わせたプランをご提案し、防音はもちろん、吸音・反射・拡散をバランスよく組み合わせた音響内装によってご要望に沿った最適な音場のお部屋づくりをしていきます。

◇ 防音について ◇

周辺の状況やお部屋の使用時間帯などによって、遮音性能（外側で聞こえる音をどこまで小さくすれば良いか）の目標値を設定し、その目標に合わせた計画をご提案します。

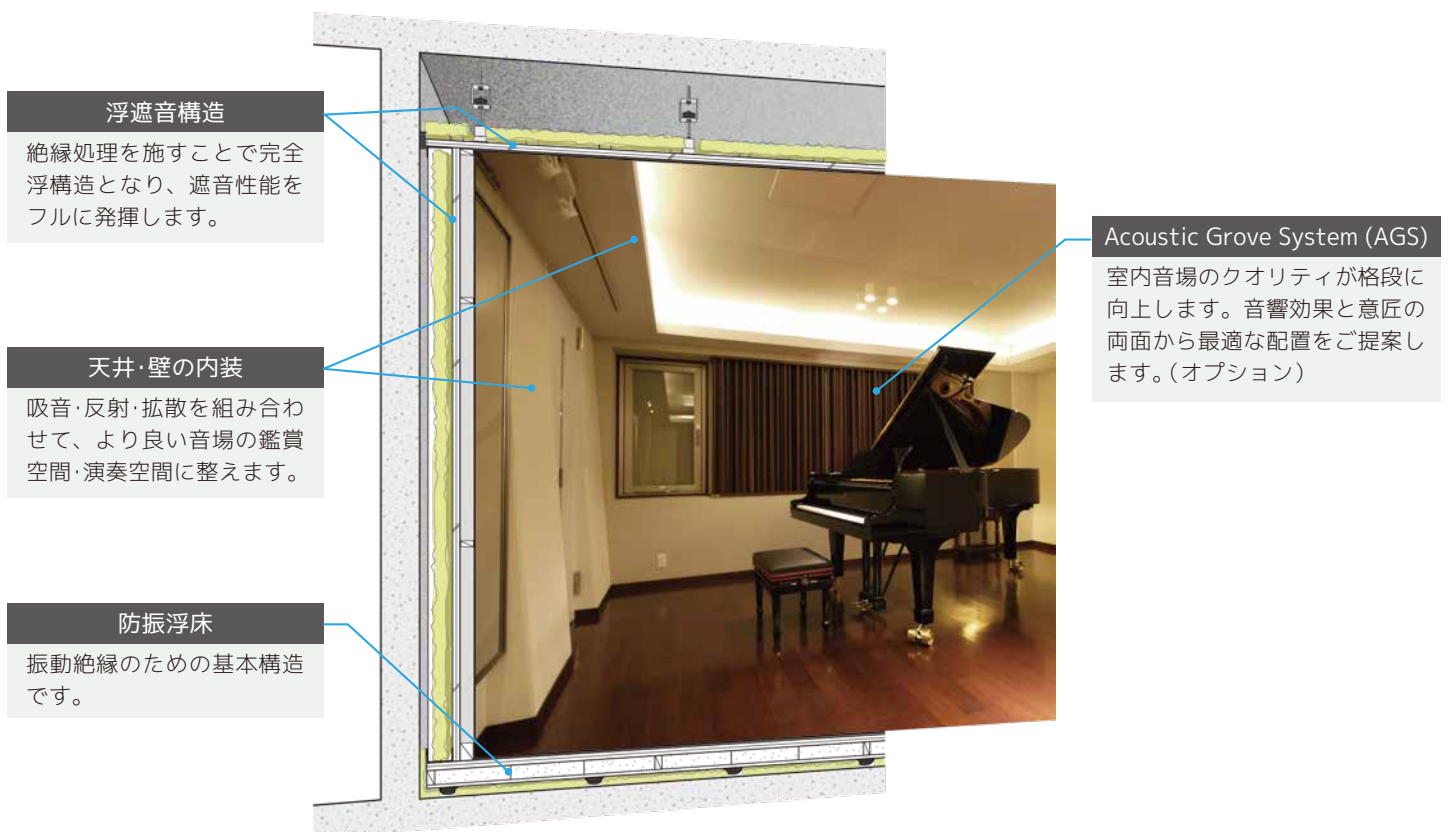
◇ 音の響きについて ◇

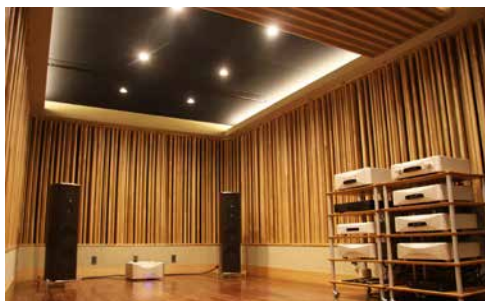
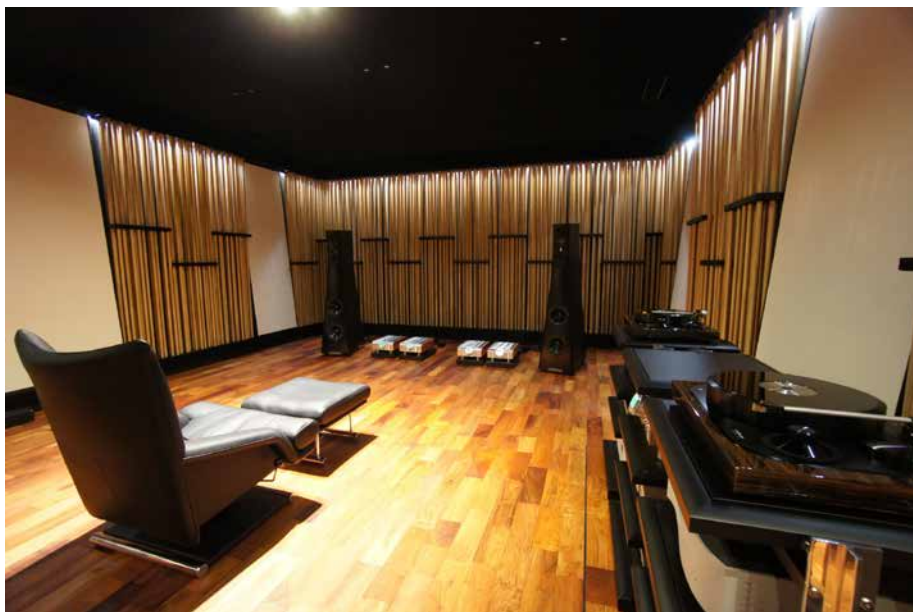
音の響きが整っていない防音されただけの部屋では、「響き過ぎてはっきり聞こえない」あるいは「響きがなく耳が詰まる感じがする」など“心地の良い部屋”にはなりません。

良い音で音楽を聴き、気持ち良く楽器が演奏できる空間をつくるために、ポイントごとに音響測定や試聴を通して細かな調整をしていきます。

◇ Acoustic Grove System (AGS) について ◇

森の音響効果に着想を得てつくられたAGS。これまで吸音と反射のバランスで調整していた音場にAGSによる“拡散”という要素を加えることで、よりナチュラルな響きの空間に上げることができます。お部屋によって最適な配置を検討した上で、計画に組み込むことが可能です。





◆ オーディオルーム ◆

ひと部屋を特別な部屋に。

レコードやハイレゾ音源を高品質な音響で楽しむために、お客様が選ばれた音響機器等の機材配置にあわせたフルオーダーメイドの音響内装をご提案します。

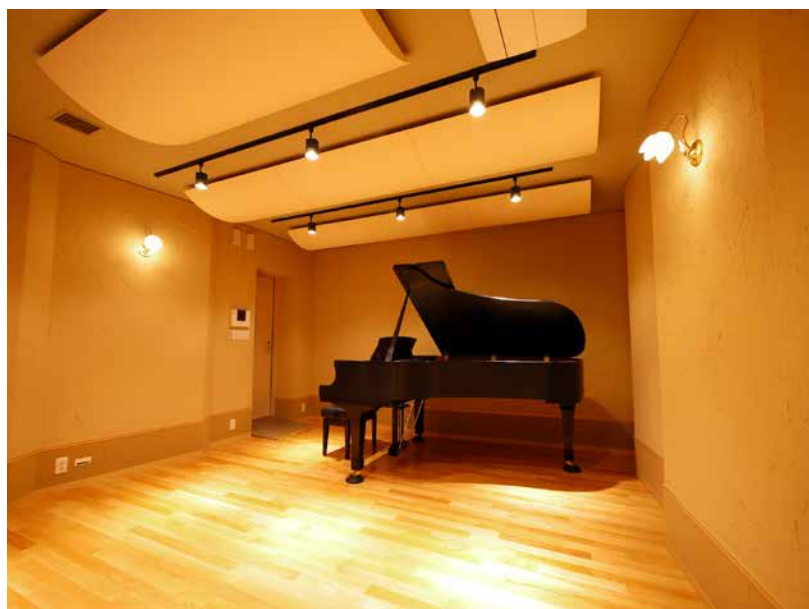
また、2chのオーディオだけではなく、大画面スクリーンとサラウンドスピーカーを組み合わせたホームシアターとの両立も可能です。



◆ プライベートスタジオ ◆

あなただけの創作空間。

ご自宅で音楽制作などを行うプライベートスタジオでは、音が周囲に漏れないことや周囲の音が入らないことだけが重要ではありません。仕事場であると同時に生活空間の一部ですので、長時間居ても飽きのこない疲れのない部屋であることも大切なポイントです。スピーカーからの音を明瞭に聞き分けられることや適度な響きの中での録音など、用途に合わせた最適な音空間と居心地の良い環境をつくれます。特注のコンソールデスクや収納家具などもお部屋の意匠にあわせた製作が可能です。



◆ 楽器演奏室 ◆

奏でることがもっと好きになる。

楽器本来の音色をありのままに響かせることは、実は意外と難しいものです。防音されただけの部屋では、音が飽和して響きが長く、歪んで聞こえてしまうことがあります。

楽器から奏でられる音を本来の自然な音色にするために、お部屋の壁や天井を使い、吸音・反射・拡散をバランスよく整え、抜けが良く、響きの美しい、心地よい音場をつくり上げます。

音の伝搬について

ここでは楽器を演奏した場合を例にご説明します。

楽器を演奏して発生した音は、右図のようにいろいろな経路から音が漏れていきます。よって、その経路がひとつでも対策されていなければ、音は漏れてしまうことになります。

私たちが防音の検討を行う場合、下見や図面などからこの経路を入念に検討し、漏れない対策をおこなっていきます。

① 透過音

室内の発生音が隣戸や隣室へ壁などを直接透過して漏れる音です。

⇒ この場合の対策は、壁などの重量を増すことにより防音性能を上げることができます。

② 振動音（固体伝搬音）

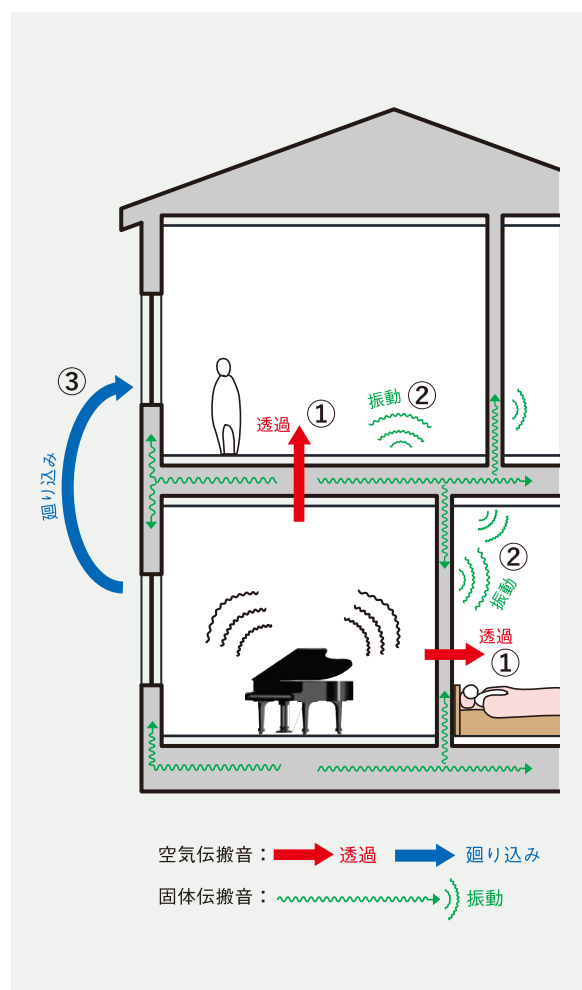
楽器などから発生した振動が床などに伝わり、糸電話のように建物の構造体を伝わって他の部屋の床・壁・天井を振動させて再放射し、音となります。

⇒ この場合は完全浮構造にし、発生した振動を構造体に伝えない対策が必要となります。

③ 廻り込み音

室内の発生音が窓や換気扇などから外部に漏れて、その音が再び隣戸に入る音です。

⇒ 対策は外部に漏れる音を減らすため、二重サッシにするなどの処置や換気扇の穴を塞ぎ室内側での換気に変更したり、ダクトを延ばして音の伝搬経路を長くし、且つ消音装置を設置するなどの対策を取ります。



一般的な住宅街で、特に夜間などの静かな時間帯では、わずかに漏れた小さな音でも他人には必要以上に大きな音に感じられるものです。そうしたことから防音の対策を検討する上では、近隣の建物との距離やその建物の構造、夜間などの交通騒音の有無、演奏する時間帯、楽器の種類や演奏するジャンルなど、様々な要素を取り込んで検討することが不可欠です。

● 詳しい内容につきましては担当者までご相談ください。 ● 『Acoustic Grove System』は特許・意匠・商標登録済みです。

